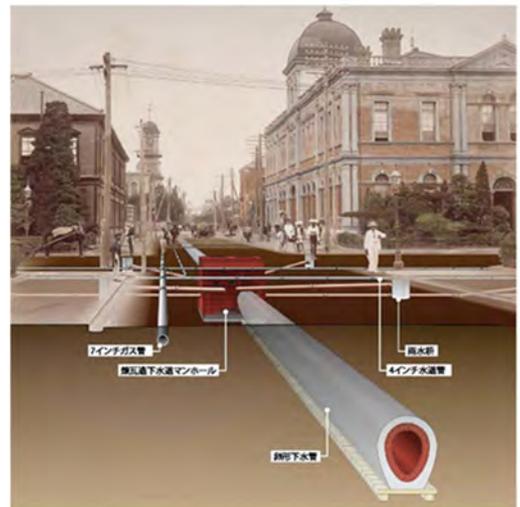


# “横浜近代下水道導入 150 年/下水処理開始 60 年” もっと知ってほしい“横浜下水道”その取組や魅力を発信します！

横浜市における近代下水道の導入は、横浜の外国人居留地において英国人技師のブラントンにより進められ、明治2年（1869年）に着手、明治4年（1871年）に完成しました。その近代下水道が導入されて150年が経過した現在、横浜市における下水道普及率はほぼ100%に達し、60年間続けてきた下水処理により生活衛生環境はもちろん、高度経済成長に伴い悪化した川や海の環境も大きく改善しました。

しかし近年、多発する豪雨への備えや、脱炭素社会実現へ向けた取組など、下水道事業を取り巻く社会的状況は大きく変化しており、都市を支えるインフラとしての重要性と役割は一層強くなってきています。

そこで、「横浜近代下水道導入 150 年/下水処理開始 60 年」という節目の年に、都市と人々の生活を支え続ける下水道の重要性や、浸水対策や老朽化対策など安全安心なまちづくりへの取組、脱炭素社会への挑戦など、“横浜下水道”の取組や魅力について、さまざまなイベントや機会を捉えて発信していきます。



明治期のアンダーグラウンド（想像図）  
（横浜都市発展記念館提供）

## 1 記念事業等今後の予定

- (1) 市庁舎2階におけるPR展示（9/1（木）～9/30（金））【記念事業】
  - ・横浜のまちの発展と下水道（巨大な年表と写真）
  - ・デザインマンホール蓋（レプリカ）展示
  - ・写真家 白汚<sup>しらお</sup>零<sup>れい</sup>氏の「美しい横浜の下水道」（写真展示）など
- (2) 「親子の下水道教室」開催（7月下旬～8月の夏休み期間中）
  - ・親子で楽しく水再生センターを見学
- (3) 下水道展'22 東京におけるPRブース出展  
（8/2（火）～8/5（金）於：東京ビッグサイト）
- (4) 「横浜下水道150シンポジウム」の開催（11月）（関係団体向け）【記念事業】
  - ※各イベント開催時期に詳細な内容の記者発表を別途行います。
  - ※上記以外にも大小さまざまなイベントを開催します。
  - ※専用ホームページを、近日中に公開予定です。

## 2 シンボルマーク



全体はマンホールを模し、街を上空から見たイメージ。敷設された下水道管によって「150」を表現するとともに、山～まち～海をつなげることで「水循環」を連想させるものとなっています。

また、「150」の「0」は、水再生センターで水がきれいになっていく様子を表現しています。

## 3 イベント名・キャッチフレーズ

- (イベント名) 横浜下水道 150  
(キャッチフレーズ) 横浜から始まり、150年の時を刻む下水道  
ー横浜近代下水道導入150年/下水処理開始60年記念ー

## 4 その他

「横浜近代下水道導入150年/下水処理開始60年」関連事業の記者発表については、明治時代の下水道管「レンガ造り卵形管」を模したデザインをタイトルに付し、シンボルマーク、キャッチフレーズを記載して発信していきますので、ご注目ください！

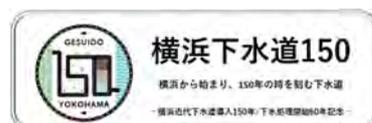
【レンガ造り卵形管】



【記者発表タイトル共通デザイン】



【記者発表貼付用シンボルマーク、キャッチフレーズ】



### お問合せ先

※内容全般について

環境創造局下水道事業マネジメント課担当課長 西高 幸作 Tel 045-671-2940

※ロゴマークについて

環境創造局政策課下水道政策調整担当課長 吉野 文雄 Tel 045-671-3586



# 横浜下水道 150 広報大使に 俳優 釈 由美子さん 就任！

～就任式を実施します～

今年、横浜市は近代下水道の導入から 150 年が経過し、また下水処理開始から 60 年を迎えました。

「横浜近代下水道導入 150 年/下水処理開始 60 年」という節目の年に、「マンホール女優」としても有名な俳優の釈 由美子さんに「横浜下水道 150 広報大使」に就任いただき、様々なイベント等を通じて、横浜下水道の広報活動をしていただくこととなりました。

つきましては、「横浜下水道 150 広報大使 就任式」を実施します。

## 1 横浜下水道 150 広報大使 就任式

- (1) 日時  
令和4年7月26日(火) 11時30分～11時45分
- (2) 場所  
市長応接室(市庁舎8階)
- (3) 就任式次第
  - ・横浜下水道 150 広報大使就任 委嘱状授与  
(ロゴデザインマンホールレプリカ等)
  - ・山中 竹春 横浜市長あいさつ
  - ・釈 由美子さんあいさつ
  - ・記念撮影
  - ・懇談

## 2 横浜下水道 150 広報大使 概要

- (1) 横浜下水道 150 広報大使  
俳優 釈 由美子(しゃく ゆみこ)さん
- (2) 就任期間  
令和4年7月26日(火)  
～ 令和5年3月31日(金)
- (3) 役割
  - ・都市を支えるインフラとしての下水道の役割、  
大切さ及び魅力の発信
  - ・各種イベント等への参加や SNS 等を通じた広報 など
- (4) 委嘱理由  
横浜市在住で、これまでも横浜市が開催するイベントに多くご出演いただいています。  
また、2019年「仮面ライダージオウ」にマンホールで戦う敵役として出演し、「マンホール女優」という肩書が定着していることから、横浜下水道 150 広報大使としてご就任いただきます。



横浜下水道 150 広報大使 釈 由美子さん

(5) 今後の参加のイベント等（予定）

- ・「横浜下水道 150」PR ポスターへの出演
- ・トークイベントの開催（令和4年9月9日（金） 場所：市庁舎1階 アトリウム）  
※トークイベントの詳細は、別途お知らせいたします。

### 3 取材について

就任式についてメディアの皆様にご公開します。

取材を希望される場合は、7月25日（月）15時まで別紙申込書をご提出ください。

【参考】釈 由美子(しゃく ゆみこ) さん プロフィール

- ・1997年デビュー。俳優、タレント。  
映画『修羅雪姫』、『ゴジラ×メガゴジラ』、『KIRI 職業・殺し屋』、ドラマ『スカイハイ』、  
『7人の女弁護士』などの作品で主演を務めるなど出演作品は累計100作を超える。
- ・舞台、イベント、ナレーション、広告出演等、多方面で幅広く活躍。  
(プラチナムプロダクション HP より抜粋)



お問い合わせ先

環境創造局下水道事業マネジメント課担当課長 西高 幸作 Tel 045-671-2940

# 温室効果ガス排出量 約 8,200t-CO<sub>2</sub>/年 削減！

## 北部汚泥資源化センター

### 汚泥処理・有効利用施設が竣工！

横浜市では、下水を処理する過程で発生する汚泥を市内2か所の汚泥資源化センターで集約処理をしています。

「北部汚泥資源化センター汚泥処理・有効利用事業」は、汚泥焼却炉と改良土プラント<sup>※1</sup>の更新に加え、汚泥燃料化施設<sup>※2</sup>を整備するとともに、これらの維持管理及び運営行うものです。施設の稼働により、**温室効果ガス排出量約 8,200t-CO<sub>2</sub>/年の削減効果が得られ、脱炭素社会の実現に向けた大きな一歩**となります。これは、横浜市地球温暖化対策実行計画（市役所編）に基づいた基準年度である2013年度の排出量実績<sup>※3</sup>から市役所全体で約0.9%、下水道事業全体の約4.5%の削減に相当します。

このたび、汚泥焼却炉の更新が完了し、既に供用中の汚泥燃料化施設、改良土プラントを含め、全ての設備が竣工したことに伴い、スイッチオンセレモニーを開催します。

- ※1：汚泥焼却灰を利用し、建設残土等を良質な埋め戻し材に改良する施設
- ※2：汚泥を炭化し、化石燃料の代替となる燃料化物を製造する施設
- ※3：総排出量 91.6万t-CO<sub>2</sub>/年、下水道事業 18.1万t-CO<sub>2</sub>/年

## 1 事業概要

**事業内容** 汚泥焼却炉の更新（2炉撤去、1炉新設）、汚泥燃料化施設の建設、改良土プラントの更新、施設の管理運営（計画処理量 124,000t-wet/年）

### 事業効果

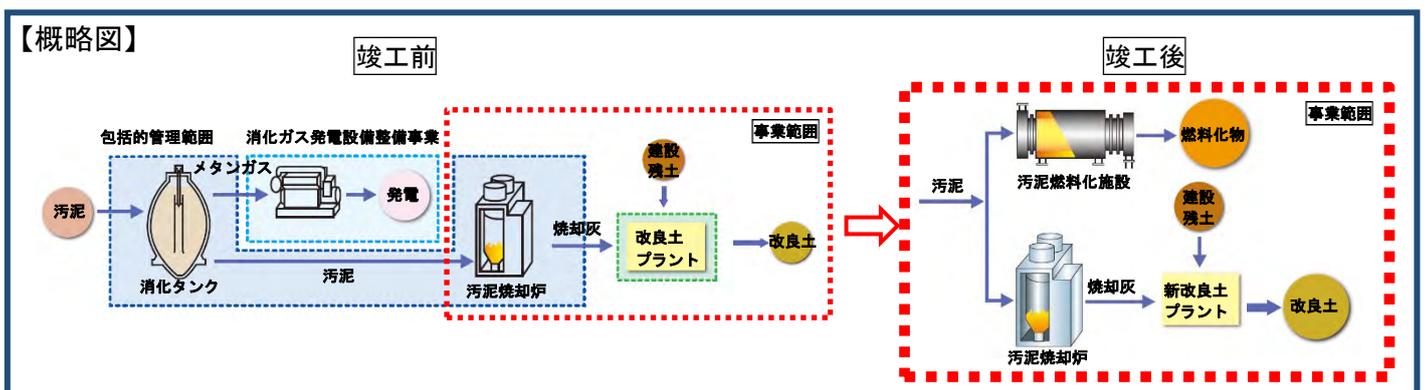
#### ■ 温室効果ガス排出量の削減

汚泥焼却炉の燃焼温度を高温化することで、燃焼工程で生成される一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)<sup>※4</sup>の分解反応を促進します。また、汚泥燃料化ではN<sub>2</sub>Oが生成される燃焼工程が無く、従来の汚泥焼却炉と比較してN<sub>2</sub>O排出量が減少します。これらの効果により、事業全体で**年間約 8,200t-CO<sub>2</sub>/年の温室効果ガス排出量の削減**が見込まれます。

※4：二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の約300倍の温室効果があるとされています。

#### ■ 循環型社会への貢献

これまで汚泥焼却灰を建設資材の原料として利用するなど100%有効利用を図っていましたが、汚泥燃料化施設の導入により新たな下水道資源の有効利用手法を確立し、循環型社会構築に貢献するとともに、安定した下水道施設の運営が可能となります。



事業形態	PFI (BTO) 方式
事業期間	平成 28 年 8 月 31 日～令和 21 年 3 月 31 日
事業者	株式会社横浜 Bay Link
経緯	平成 28 年 8 月 事業契約締結 平成 31 年 3 月 汚泥燃料化施設建設完了、改良土プラント更新完了 令和 4 年 3 月 汚泥焼却炉更新完了

※本事業の詳細については、以下 URL のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kasen-gesuido/gesuido/torikumi/PFI/sludgeyukopfi.html>

(↑「横浜市 汚泥処理 有効利用」で検索)

## 外観写真



汚泥焼却炉



汚泥燃料化施設



改良土プラント

## 2 スイッチオンセレモニーの概要

日時 令和 4 年 6 月 15 日 (水) 10 時から 12 時まで

場所 鶴見区末広町 1 丁目 6 番地の 1 北部汚泥資源化センター

内容 事業概要説明、スイッチオン、施設見学等

出席者 環境創造局、株式会社横浜 Bay Link

※ 当日のセレモニーは事業関係者で行い、後日ウェブサイトにてセレモニーの様子を含めた事業紹介映像を掲載する予定です。

※ 本セレモニーは、「横浜近代下水道導入 150 年/下水処理開始 60 年」記念イベントの一つとして開催します。

## 3 取材について

取材を希望される場合は、6 月 14 日 (火) 12 時までに、下記お問い合わせ先までご連絡ください。



お問合せ先

環境創造局下水道設備課長 芦澤 謙司 Tel 045-671-2816

## 下水道施設（水再生センター・ポンプ場）で 大雨に備えた訓練を実施しました！

横浜市下水道施設では、毎年、梅雨時期以降の大雨に備え、雨水ポンプや自家発電設備などの主要設備の整備状況や訓練状況を点検する「一斉点検」を実施しています。

今年度は6月9日（木）に水再生センター等で主要設備の整備状況の点検や、大雨対応の訓練を実施しました。

同時に、『横浜市下水道施設に関する災害時の応急措置の協力に関する協定』を締結している「一般社団法人横浜管機設備協会」及び「一般社団法人日本建設業連合会関東支部」との協働により、災害時を想定した合同訓練を実施しました。

### 【一斉点検・訓練概要】

- 1 日時：令和4年6月9日（木）
- 2 場所：市内全ての水再生センター11か所及び水再生センター所管の8ポンプ場

### 【一斉点検、訓練の様子】



### ＜手動によるポンプ設備等運転＞

機器の故障により通常運転が不能になった場合を想定し、現場盤によるポンプ・自家発電設備等の手動運転の訓練を実施

更に、全停電した状況を想定し、自家発電設備の手動運転により電源を確保し、ポンプを手動運転するまでの一連の対応について訓練を実施



### <ICT を活用した訓練>

『横浜市下水道施設に関する災害時の応急措置の協力に関する協定』により、「一般社団法人日本建設業連合会関東支部」と合同で、被災した際のがれき除去等を想定した ICT を活用したパワーショベルの遠隔操作訓練を実施



### <可搬型自吸式ポンプによる排水訓練>

「一般社団法人横浜管機設備協会」及び「一般社団法人日本建設業連合会関東支部」と合同で、災害時の可搬式排水ポンプの排水訓練を実施

お問合せ先

環境創造局下水道施設管理課長 大橋 洋明 Tel 045-671-3573